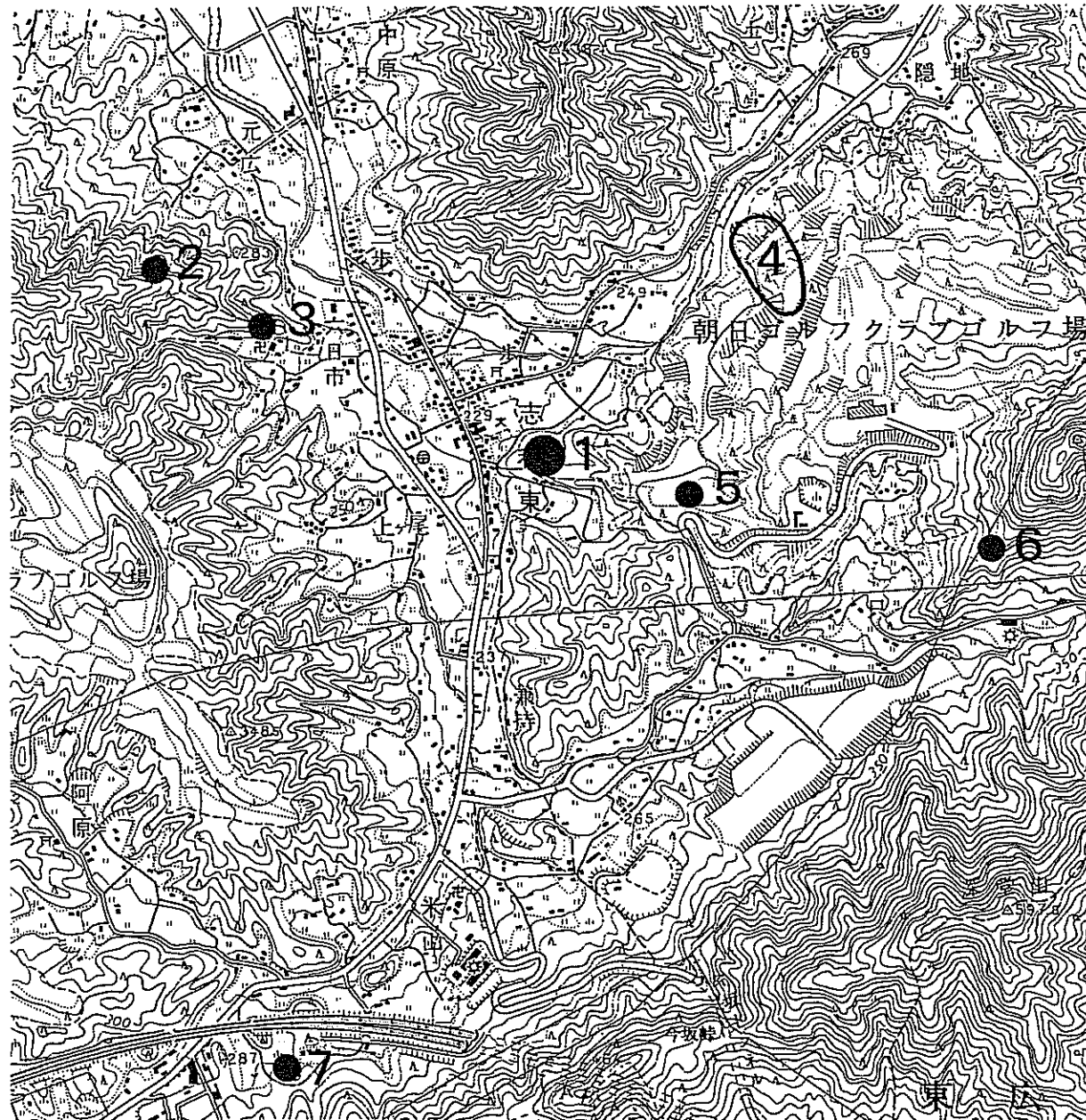


蛇迫古墳群見学会資料

平成 15 年 8 月 23 日

財団法人東広島市教育文化振興事業団

東 広 島 市 教 育 委 員 会



周辺の古墳時代遺跡分布図 (1:20000)

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1 蛇迫古墳群 | 2 生城山古墳 | 3 名免羅古墳 |
| 4 塚土古墳群 | 5 蛇迫山古墳 | 6 上只古墳 |
| 7 南太刀掛古墳 | | |

1 位置と環境

蛇迫古墳群は、東広島市志和町志和東に所在する古墳群です。周辺には、生城山古墳、名免羅古墳、塚土古墳群、蛇迫山古墳、上只古墳、南太刀掛古墳などの古墳があり、横穴式石室をもつ古墳時代後期のものです。

2 遺跡の概要

今回発掘調査した蛇迫古墳群は、南から北へ延びる尾根上に4基の古墳が造られています。それぞれの古墳は、尾根に直交するように溝が掘られて墓域を区画し、地形の整形と盛り土をすることで墳丘をつくりだしています。しかし、後世に整地が行われたようで、どの古墳も盛り土の大部分は削られてなくなっています。

第1号古墳は、最高所に位置する直径約12mの円墳で、盛り土の高さは約0.5mです。埋葬施設は確認されませんでしたが、墳丘の南半分が調査範囲外のため、埋葬施設は未調査の南側にある可能性強いとおもわれます。墳丘北側には、土坑2基が確認されていますが、遺物は出土していません。

第2号古墳は、直径約10mの円墳で、盛り土の高さは約0.3mです。2基の埋葬施設が確認され、南側が1号主体、北側が2号主体です。1号主体は地山を掘り込んだ素掘りの土坑で、長さ200cm・幅116cm・深さ30cmです。坑内には木棺を納め、頭を東方に向けて埋葬されていたものと考えられます。遺物は出土していません。2号主体も地山を掘り込んだ土坑で、長さ273cm・幅87cm・深さ26cmです。組合式の木棺が納められ、頭の方角は東と考えられます。遺物は出土していません。

第3号古墳は、直径約10mの円墳で、盛り土の高さ約0.2mです。埋葬施設は粘土槨で、粘土の範囲は長さ約300cm・幅約130cm、内法は長さ234cm・幅51cm・深さ22cmで、剝抜式の木棺が納められていたと考えられます。遺物は出土していません。

第4号古墳は、直径約9mの円墳です。埋葬施設は土坑で、長さ165cm・幅60cm・深さ33cmです。遺物は、現在調査中のため不明です。

3 遺物について

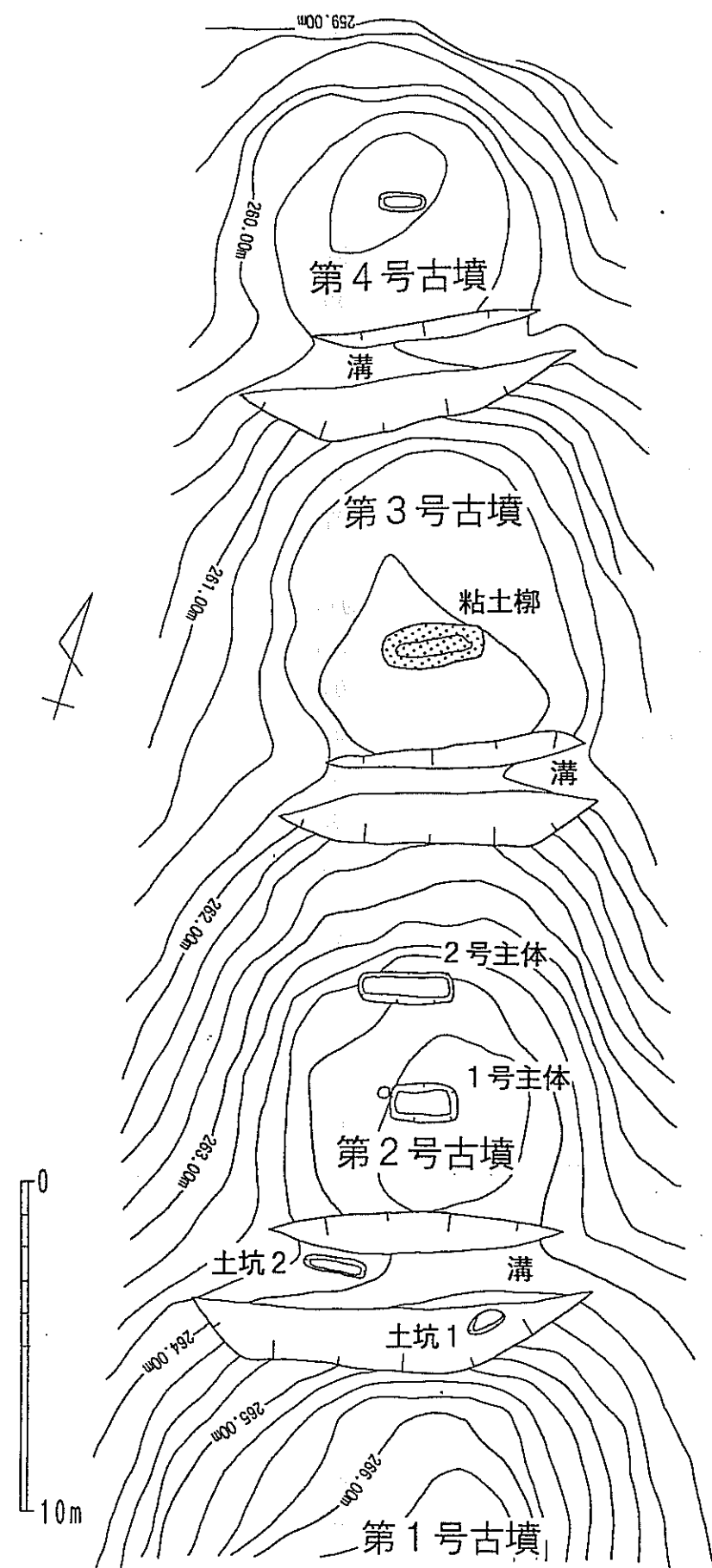
第3号古墳北側の溝から、土師器が2点出土しています。器種は小型丸底甕と高杯で、古墳時代前半期の4世紀後半から5世紀前半頃のものと考えられます。出土状況から第3号古墳に伴うとみられ、築造されたのもこの時期と考えられます。

《用語解説》

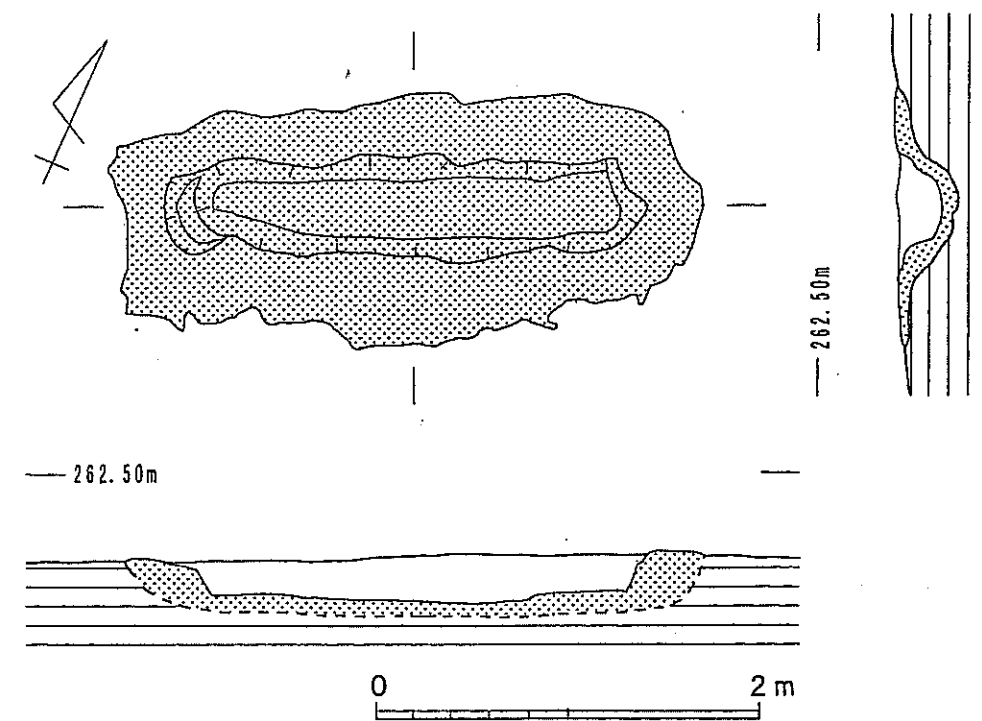
土坑…遺体や棺を納めた素掘りの墓穴のこと。

粘土槨…古墳時代の前半期に行われた棺の埋納方法のひとつで、棺の周りを粘土で覆ったもの。

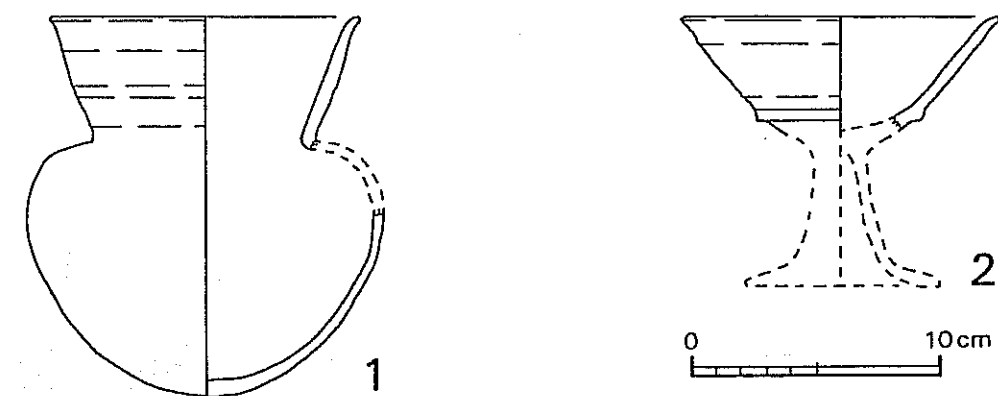
土師器…古墳時代に使われた素焼きの土器。軟質で、赤褐色をしている。



遺構配置図 (1:200)



第3号古墳粘土柳実測図 (1:40) (アミ目は粘土)



土師器実測図 (1:3)

- 1 小型丸底壺 2 高杯